

診療局：＜内科＞糖尿病・内分泌代謝内科

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
主任部長兼検査科部長 兼臨床検査センター長 兼甲状腺センター長	高野 徹
副部長兼糖尿病センター長	大槻 朋子
副部長	川知 祐介
副医長	小椋 紫芳
非常勤医員	山西 雅之

＜特色と概要＞

糖尿病・内分泌代謝内科では、糖尿病および内分泌代謝疾患患者の外来および入院診療を行っている。外来部門において、糖尿病、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患の外来診察、糖尿病合併症進行予防のための療養指導（フットケア外来、透析予防外来）、甲状腺疾患の特殊検査・治療（RI検査・治療、甲状腺腫瘍のエコーガイド下穿刺吸引細胞診、PEIT）を行っている。病棟部門においては内分泌代謝疾患および一般内科疾患の入院中の管理を行っている。また他科入院症例の血糖コントロールを共観として担当している。

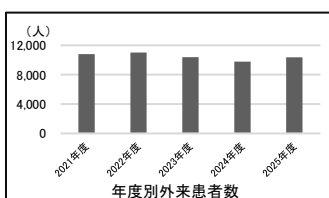
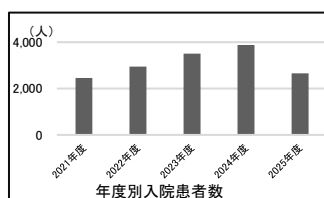
＜実績＞

外来診療については、糖尿病、甲状腺、その他内分泌疾患の患者を主に診療し、年間の延べ外来症例数は10,363人、紹介予約件数は472件であった。また検査として甲状腺エコーおよび穿刺細胞診を当科で実施している。

入院延べ患者数は2,657人であった。糖尿病症例は164例（1型糖尿病12例、2型糖尿病53例）であった。このうち教育入院は184例であった。また2021年10月より妊娠時糖代謝異常の症例を当科にて担当開始し、今年度は56症例を経験した。内分泌疾患は20例（下垂体機能低下症精査5例、原発性アルドステロン症精査6例、副腎精査6例）であった。糖尿病教室は23回開催し、延べ304人が参加している。

院外啓発活動として、第9回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを2025年11月15日（土）に行った。テーマは『いのち輝く糖尿病診療の進歩』であり、当科主任部長の高野徹医師の講演の他、骨密度チェックやABI測定などの無料検査、フレイル度チェックの体力測定などを行った。患者数（外来及び入院、延べ人数の推移）

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2021年度	10,787	44.6	2,460	6.7
2022年度	11,014	45.3	2,944	8.1
2023年度	10,390	42.8	3,508	9.6
2024年度	9,777	40.2	3,882	10.6
2025年度	10,363	42.8	2,657	7.3



入院患者の疾患名と人数（主病名件数 上位50まで）

（期間2025/4/1-2026/3/31退院）

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
妊娠中に発生した糖尿病	O244	54
2型糖尿病	E11	32
詳細不明の糖尿病	E14	27
肺炎, 詳細不明	J189	12
低血糖症, 詳細不明	E162	10
食物及び吐物による肺臓炎	J690	7
1型糖尿病	E10	7
2型糖尿病, 腎合併症を伴うもの	E112	7
詳細不明の糖尿病, ケトアシドーシスを伴うもの	E141	7
原発性アルドステロン症	E260	6
2型糖尿病, 多発合併症を伴うもの	E117	5
高血糖, 詳細不明	R739	5
下垂体機能低下症	E230	5
1型糖尿病, ケトアシドーシスを伴うもの	E101	5
その他及び詳細不明の副腎皮質機能不全(症)	E274	4
2型糖尿病, 合併症を伴わないもの	E119	4
詳細不明の糖尿病, その他の明示された合併症を伴うもの	E146	4
低浸透圧及び低ナトリウム血症	E871	3
その他の呼吸器症状を伴うインフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離されないもの	J111	3
尿路感染症, 部位不明	N390	3
非糖尿病性低血糖性昏睡	E15	3
既存の2型糖尿病	O241	3
低カリウム血症	E876	3
発熱, 詳細不明	R509	2
妊娠中の糖尿病, 詳細不明	O249	2
歩行困難, 他に分類されないもの	R262	2
2型糖尿病, その他の明示された合併症を伴うもの	E116	2
高カリウム血症	E875	2
尿路系プロセス, 挿入物及び移植片による感染症及び炎症性反応	T835	1
体液量減少(症)	E86	1
非特異性腸間膜リンパ節炎	I880	1
その他の脊椎症, 腰部	M4786	1
びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	E050	1
気管支肺炎, 詳細不明	J180	1
アシドーシス	E872	1
急性下気道感染症を伴う慢性閉塞性肺疾患	J440	1
正常圧水頭症	G912	1
筋の消耗及び萎縮, 他に分類されないもの, 部位不明	M6259	1
その他及び部位不明の内分泌腺の良性新生物, 下垂体	D352	1
副甲状腺<上皮小体>機能亢進症, 詳細不明	E213	1
内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 副腎	D441	1
その他の側鎖アミノ酸代謝障害	E711	1
クッシング症候群, 詳細不明	E249	1
喘息, 詳細不明	J459	1
肥満症, 詳細不明	E669	1
甲状腺クリーゼ又は急性発症	E055	1
神経系及び筋骨格系に関するその他及び詳細不明の症状及び徴候	R298	1
甲状腺中毒症, 詳細不明	E059	1
脊柱管狭窄症, 腰部	M4806	1
アナフィラキシーショック, 詳細不明	T782	1

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

新型コロナウイルス感染症が蔓延していた間は糖尿病等内分泌疾患の患者が当科の受診を避ける傾向があり、外来の紹介患者や新規の入院患者、特に糖尿病教育入院の患者が減少していたが、診療体制は以前の状態に戻っており、住民への啓発活動も以前と同じように実施することができるようになった。病診連携の一環として、昨年度から糖尿病の合併症検査を近隣医が直接申し込めるようなシステムを立ち上げた。今後はこのような取り組みを活用して、外来での紹介患者の受入数の増加や糖尿病教育入院をはじめとした入院患者の増加を図っていきたい。